

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400084		
法人名	医療法人 原会		
事業所名	グループホーム銘仙の家		
所在地	群馬県伊勢崎市平和町19-10		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年8月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『みんなが仲良く、笑いの絶えない家』『地域・家族・人が集まる家』その人の持つ、個性が活かせる家』をグループホーム理念としています。
 買物や外出等の機会を設け、楽しみの機会を作り、その活動を毎月の新聞で報告しています。地域の方とは、近隣の高校生との交流や近隣のお店に買物に行くなどして交流の機会をもつようになっています。
 ご家族様とは、3ヶ月に1回のケアプラン説明の機会を中心に生活の報告をしています。ひとり一人の個性や特徴をつかみ、その人らしく生活できることを主眼におきながら、共に生活を送っています。
 入居者毎に職員の担当制を設け細かい要望や意見をきけるようにして、希望に応じて担当が個別ケ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の結果を家族等に報告している。事業所だけの考えにとらわれず多くの方の考えを参考に、よりよい事業所運営に取り組んでいる。家族にアンケートをお願いし、日頃気付けなかった本人や家族の思い等を把握し、ケアの見直しや向上に活かしている。入浴やレクリエーション参加なども自由に選択出来、自分だけの時間を持ちたい場合は居室で過ごしている。また、地域との係わりが円滑に出来ている。地元高校生やボランティアの訪問、隣接商店での買い物、地域行事への参加、自治会との連携等、事業所は地域から多くの恩恵を受けているが、地域住民にとっても事業所が頼れる存在になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念は毎月発行している新聞や事業所内に掲示して、地域に理解していただくようにしている。また部門目標を設定する際にも必ず理念をもとに設定している。	開設時に作成した理念を継続して掲げており、事業所内や毎月発行の新聞に掲示している。新入職員には先輩が教え、サポートしている。毎月の会議で目標を確認して、全職員が共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや作品展に参加したり、隣接のスーパーで買物を楽しんでいる。近隣の高校生との交流や地域の方が書道ボランティアで指導していただいたり、地域のサークルの慰問を受け入れる等日常的に交流が行われている。	書道の先生や向かいの工業高校ではボランティアが授業のカリキュラムに組み込まれ、書道の指導やテニスボールを椅子に付けたり車椅子の点検をしている。避難訓練の日程を回覧板で知らせ、地域の方の参加をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、施設の行事(納涼祭、避難訓練)などへの参加を呼びかけ理解を深めていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告、事故・苦情報告をし、参加者から意見をいただき、サービス向上に活かしている。	関係者が参加して2ヶ月に1度開催している。会議では近況や苦情等の報告、外部評価結果のお知らせを行い、意見交換がされている。食事についての話題が出たり、区長さんから行事の案内や提案があり事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、運営だけでなくサービスなどについても助言をいただいている。	市の担当者とは外食の出来る場所やイベントの紹介等の情報をもらっている。施設長が行政主催の認知症サポート養成講座の講師や地域包括支援センターの運営委員をつめているので交流の機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会は年1回実施し、職員への理解を深めている。電気錠はしているが開放時間を設けたり、希望時は一緒に外出している。行動は妨げず、本人の意思を尊重している。	共用の玄関ホールから事業所に入る引き戸は施錠している。前回の外部評価の結果を踏まえ運営推進会議で開錠について話題を提供したが家族からは従来通りで良いと発言があった。施錠していても拘束されている気持を与えないような対応に努めている。法人内研修で身体拘束についての学習をしている。	家族会や運営推進会議等の場において鍵をかけることの弊害を説明し、リスクを含めて家族等と話し合い、開錠に向けて更なる努力をして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を年1回実施している。その他、県・TVなどの情報からカンファレンスを開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『権利擁護』については、年1回研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と説明により丁寧な説明を心がけている。また、相談先を明記することで、契約後も相談しやすいよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を依頼している。また、家族会を実施し、家族の意見、要望をきく機会を設けている。	年に1度、家族にアンケートをお願いし家族等の希望や意見を聞く機会を作っている。食べ物についての要望がありメニューの変更を行った。ホームの雰囲気は暖かいとの意見が聞かれ職員の励みになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務改善会議を開催している。各係委員会を活用し、活発な提案をしている。また、職員の個人面談の場を活用し率直な意見を聞いている。	毎月業務改善会議を開催し職員の意見や提案を聞いている。年に2回、管理者と職員との個人面談を行い、各人の目標とその進捗状況について話し合いを持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加を奨励している。また、法人が幹部会議を開催し、各事業所からの声を聞く場となっている。年2回の人事考課面接を実施し、各職員の個人目標の把握と進捗状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を奨励している。また、施設内では年12回の研修会を実施している。グループホーム内においても年2回の研修会を計画している。新人職員に対しては、OJT研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加の場等にて外部の方と交流を図っている。同法人内のグループホームとも意見、相談ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を実施し本人に直接面接している。入居後も1週間毎日アセスメント、スタッフカンファレンスを実施し、本人の困っていることや要望を把握している。担当制を設けており話しやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前事前訪問を実施し、早期に生活に慣れていただけるよう本人、家族より要望を聞いている。入居後には家族カンファレンスを開催し、要望を伺いケアプランに含めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前日から、入居後1週間は、毎日スタッフカンファレンスを開催し、初期に必要な支援について職員全員で話し合いを持ち対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやりたい事やできることを尊重し職員は共に生活するという意識をもっている。職員側が何か介護を行う際も、入居者に声かけをし、洗濯、寝具交換、食事準備等できる範囲で共に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して随時こまめな報告を行い、家族の意向も確認している。ホーム内の行事に参加して頂くことで、家族と本人の関わる時間を大切にしている。また、ホームでの様子は新聞でも報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊もお願いしている。友人・家族の面会時には、お茶を出し一緒に談話できる場を提供している。地域の老人会に参加している入居者もいる。	家族や友人との面会や外出・外泊は自由である。これまで利用していた近隣のミニデイサービスの利用、趣味や得意な事柄等の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が積極的に介入し、孤立しないように努めている。また、入居者同士の関係性も把握し、より良い関係が保てるよう介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、ご家族様へ今までの生活状況などを細かく伝え生活環境の変化にストレスや不安のないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設け、入居者との意向をなじみの職員が伺えるような環境を整えている。担当者として入居者で個別プランも設けて対応している。	担当制を設けており、入居者と職員が相対して話し合い、本人の意向や希望を聞き、家族面会時には家族の要望等を聞き、個別プランで対応するようにしている。これらの情報はカンファレンスで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、本人より生活歴については、情報収集している。また、本人様とは日頃のコミュニケーションの中から生活歴を知ることができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を活用し、現状の把握に努めている。また、スタッフカンファレンス、情報ノートを活用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプランの実施状況をチェックし、モニタリング結果をもとにスタッフカンファレンスを開催している。家族ともカンファレンスを実施しケアプランを見直ししている。	毎月モニタリングの後にスタッフカンファレンスを行い、3ヶ月毎に介護計画を見直し、家族の了解を得て、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の言動、様子は個別記録に24時間の生活の様子を記録し、生活の把握に努めている。職員同士の申し送りは、連絡ノート、情報ノートに記録し全スタッフにて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内外研修から知識、技術の向上ができるよう学んでいる。同施設内の他事業所スタッフとも会議の場などから意見を聞き参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の希望に合わせ、買物に行ったり、地域の催し物を見に外出したりしている。地域ボランティアなどでも楽しんでいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。往診は隔週で受けられる。かかりつけ医以外の受診の場合、家族の同行または、職員の付き添いにて受診している。	本人・家族の希望するかかりつけ医が受診出来る。入居前のかかりつけ医の継続の場合は、緊急時の連絡先を聞いている。協力医の場合は2週間に1度の往診支援がある。歯科については週に1度受診できる。家族支援が出来ない場合は事業者で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは入居者状況を看護師に報告・相談を行っている。身体面・精神面に変化があった場合、看護師へ報告し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との連携を密に情報の共有を図るようにしている。入院中も見舞いへ行き状況把握に努め、ホームに戻るよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時弥家族カンファレンス時に方針について詳細に説明し家族の方針も伺っている。本人の状態に応じ、希望時必要に応じ家族カンファレンスを開催し、説明、話し合いをおこなっている	事業所の基本的な方針がある。月に1度又は必要に応じて家族と共に現状を確認し、家族の希望に沿って段階的に話し合っている。看取りの事例は無い。事業所が複合施設の1つであることを念頭に置き入居している利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルの把握につとめている。内部研修においても確認し周知している。救急時物品の場所については表示し、緊急時に対応できるようにしている。また、随時看護師に相談できる環境にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。周知としては、ホーム内において入居者を対象に自主的な訓練を実施している。	年2回の防災・自主訓練とAEDの訓練をしている。地域の方の意向は避難訓練の参加は無理だが、災害時には協力すること。自動通報装置やスプリンクラー設置済み。備蓄として3日分の水・ご飯・ゼリー・缶詰・胃ろうの液等を用意している。	災害時にあわてずに避難誘導が出来るよう、年間を通じて利用者と職員で自主訓練を重ねてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりで居室で過ごす時間も大切にしている。レクリエーションを実施しているが、参加しない選択肢も設けている。排泄介助の声かけ等は、他者に気付かれないように配慮し声かけをおこなっている。	本人の気持ちを大切にした個別ケアを実践している。毎朝、一日の予定を知らせて自分で選択してもらい、楽しみの時間が持てるよう支援している。「スピーチロックはしない」をサービス向上委員会で目標に掲げ、職員は排泄や入浴時には意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を積極的に伺い、言いやすいよう支援している。意志を表出しにくい方でもできる限り選択性のある場面を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のできること、望んでいることをできる限り把握し、ひとりひとりのニーズを伺っている。入居者のリズムに合った環境づくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものは、本人に選んで着てもらっている。季節感も出るよう配慮している。毎月利用することのできる理美容についても希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を貼りだし、食事に興味を持っていただいている。給食係りを設け味噌汁をよそってもらったり、厨房まで取りに行ったりしている。出前を頼んだり、バイキング食等の行事食も行っている。	献立を掲示して食事に関心を持ってもらい、楽しみになるよう工夫している。利用者は当番制で味噌汁を厨房までとりに行き、よそる等の準備に参加している。出前やバイキング食等もあり、利用者・職員と一緒に食事を楽しんでいる。利用者の希望は給食会議で検討し反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の能力に合わせた食形態を提供し食べやすい配慮をしている。食事・水分量は、毎日記録に残し経過を追っている。必要に応じ、栄養士や看護師に相談し、栄養補助食品なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助をおこなっている。毎週来ている歯科往診には必要に応じ受診できるようにし、歯科衛生士からアドバイスももらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表なども利用し、日常の把握に努め、定期的にカンファレンスを開催し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた介助を提供できるようにしている。	排泄チェック表によりパターンを把握しトイレでの排泄を支援している。夜間は声掛け誘導をしている。汚れた時にはシャワーや清拭で対応している。オムツは施設の物を使用し、多種類あるので適切なものを使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から散歩や体操を行ったり水分摂取量の確保に努めている。日々の献立も乳製品や食物繊維が多く取れるよう配慮している。便秘の際は、医師・看護師の指示のもと下剤の処方もしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとり一人がゆっくり入浴できるよう時間も設けている。週3回の入浴を目安にしているが本人の希望も伺いながら実施している。入浴の順番も毎回変えて対応している。	週に3日の入浴を目安にしているが、希望があれば毎日でも入浴することが出来る。希望による対応については声かけや掲示により知らせている。身体状況により機械浴利用の方は週に2回となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、本人の生活スペースや疲労に応じ横になっていただいている。居室で安眠できるよう寝具は本人用のものも使用していただいている。清潔を保ち、エアコンで各居室毎の調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服マニュアルを作成し、職員全員が把握できるようにしている。内服量の多い人は薬が落ち足りなくなったりしないようタオルを使用し、処方されている内容で内服できるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望の応じ近隣のスーパーへ買い物に行き気分転換を図っている。洗濯物たたみ、掃除、食事準備等は入居者の能力に合わせ行って頂いている。週1回は職員と施設内散歩をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへ買い物に行ったり、小グループで外出したりしている。地域のお祭り、催し物に参加、見学に行っている。	お花見、地域のお祭り、作品展に出品・見学に出かけている。隣接のスーパーには月に2回、各自500円を持って買い物に行っている。外に出る楽しさと一緒に好きなものを選択出来る貴重な時間になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のスーパーへ買い物には事前に広告をチェックして買いたいものと予算を考えていただき、本人の希望するものと購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話の希望ある場合は対応している。つながりやすい時間も把握し連絡が付きやすいようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるフロアから見える場所に季節の草花を置いている。レクリエーションの時間には季節感のある飾りを作成し展示している。各居室については、自分の愛着のある家具を持ってきていただいている。	窓が高く、通りに面した部分が前面ガラスになっており、訪問者が良く見える。フロア内は明るくて開放感がある。窓からの日差しが強く当たらない様に角度の工夫がされ快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は気の合う人同士で近くにして会話を楽しんでもらえるようにしている。好きなテレビ番組を一緒に見たりすることで話題を共有し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは本人の愛着のあるもの等持ち込んでいただいている。安全な配置にしながらも本人の希望に添った居室作りを心がけている。	愛着のある家具等を持ち込んだり、カーペットが敷かれており、落ち着いて、居心地良く過ごせるような居室作りの工夫が見られる。化粧品や日用品が思い思いに整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは、本人の動線を配慮したテーブル配置にしている。居室は、身体機能に合わせ福祉用具など使用し自室支援ができるよう環境づくりをしている。		